

学 会 記 事

◎第5回理事会 (36.10.25) 出席者：永田会長、ほか副会長および理事 11名。

議事：1) 各種委員会の内規を定款改正の上作成すること。2) 水理委員会の内規は、定款改正ができるまで提案の内規によることとする。委員の追加を承認。3) 土木学会 50周年記念事業委員会内規を決定。4) 吉田賞委員会の規定を承認。5) 特別員勧誘に関し、各理事が資料を検討して、勧誘担当を次回提出願うこと。等級変更の返事のないものの表を出すこと等。6) 土木用語事典の編集についての出版企画委員会の主旨を承認。出版を急がず内容の充実したものを希望する。50周年記念事業に組入れることも考えられる。この意向で次回までに計画案を出すこと。7) 土木製図（高校教科書）については、高校土木教育研究会の計画案ができた上で協議すること。8) 土木工学ハンドブック改訂については、福田委員長と担当理事において計画案を検討すること。9) 次の委員会の委員および幹事の委嘱を承認。

1. PC鉄道橋の設計および施工基準の研究委員会
2. 合成桁鉄道設計示方書に関する研究委員会
3. プレストレストコンクリート委員会
4. 構造物耐震設計研究委員会（追加）
5. 土木学会 50周年記念事業委員会（追加）
6. 吉田賞委員会（追加）

10) 本州四国連絡架橋技術調査委員会の構成につき、建設、国鉄関係者により案を作る、内規を事務局で立案すること。11) 「災害に関する水文学」に関するシンポジウムを後援することを承認。12) Ippen 博士の来朝を歓迎し、準備については会長、専務理事、林理事に一任する。13) 会員入退会、会計報告、刊行物申込報告、各種委員会報告を承認。

◎各種委員会

(1) 吉田賞準備委員会 (36.9.22) 出席者：永田会長、ほか委員 7名。議事：1) 記念事業会の募金結果の報告。2) 資金管理方法につき理事会に一任する。3) 事業運営の委員会設置について。4) 内規作成について。

(2) 第5回異形鉄筋設計研究小委員会 (36.10.2) 出席者：国分委員長、ほか委員 9名。議事：1) 鉄筋コンクリート T 桁鉄道橋の計算書と図面の説明および審議。2) 次回からは訂正指摘のあったところを修正し、体裁をととのえる。3) 次回委員会について。

(3) プレストレストコンクリート小委員会 (36.10.3) 出席者：国分委員長、ほか委員 30名。議事：今度の指針発刊を以て今までの改訂小委員会を解散するに際し、その最終委員会を開催し、PC 指針次期改訂に対する諸問題点を検討、新たに 5 分科会（グラウト、コンクリート、設計、施工、鋼材）にわけて委員会を設置し、改訂にそなえることになりその構成を決定した。

(4) 第5回文献調査委員会 (36.10.4) 出席者：久野委員長、ほか委員 9名、幹事 1名。議事：1) 46巻 11号登載抄録、目録の選定。2) モニター依頼の件。3) 文献目録追加雑誌の件。4) その他。

(5) 地震工学シンポジウム第1回運営委員会 (36.10.5) 出席者：那須委員長、ほか土木 4名、建築 3名（1名欠席）、土質 2名（1名欠席）、地震 2名の各運営委員、職員土木 2名、建築 1名、土質 1名。議事：8月 8日土木、建築両学会の有志による打合会における申合わせ事項にもとづいて協議された。①共催学会を土木、建築、土質、地震の 4 学会とする。②4 学会よ

りそれぞれ次の運営委員を出すことになった。

(土木) 岡本舜三、久保慶三郎、川口輝夫、大久保忠良

(建築) 梅村 魁、金多 潔、小林啓美、久田俊彦

(土質) 森本茂男、遠藤正明、中原通夫

(地震) 金井 清、鳩 慎三

③運営委員会の委員長 岡本舜三委員と決定。④各学会より次の幹事 1 名ずつを出すことになった。

(土木) 久保慶三郎 (建築) 久田俊彦 (土質) 森本茂男 (地震)

鳩 慎三

⑤論文募集について次のように話合った。開期を 37 年 11 月 15 日と仮定して

原稿提出期限 37 年 8 月 15 日

印刷所渡し ム 9 月 30 日

仕上リ ム 10 月 末日

募集広告 36 年 11 月中に大綱を決めて各学会誌に掲載する。

⑥課題については各学会の委員会において相談の上研究課題を出し合う。⑦シンポジウムの形式その他については 11 月 6 日幹事会において計画する。

(6) 第5回会誌編集小委員会 (36.10.6) 出席者：堺副委員長、ほか委員 3名。議事：1) 46巻 10号口絵写真、ニュースの選定。2) 英文目次の検討。3) 46巻 11号会誌編集につき最終的な打合わせを行なった。4) その他。

(7) 高校土木教育研究会幹事会 (36.10.7) 出席者：八十島幹事長、ほか幹事 12名。議事：午後からの研究会に諮る事項について協議。1) 研究会の規約、名称、構成を確認、幹事の任期は 2 年で半数交代とする。2) 研究会が東日本、近畿ブロックで構成されたが、研究会の実績を見て漸次全地域に PR することを考える。3) 事業として着手することは、①土木製図の出版（実教出版社から申出）、②実験の指導要領の作成、③ワークブックの作成。4) 出版の方法は次の三段階がある。①編集出版を学会でやる、②編集して出版社にまかせる、③編集出版を出版社でやり学会が監修する。5) 土木製図の出版については、③の場合をとり、執筆者を研究会で選び（東日本を中心として）、監修者は幹事が協力者に加わる。編集費は出版社がもつ。6) 指導要領については現行の文部省の教育課程の編成を研究して、必要に応じて学会から文部省に建議することを考える。7) ワークブックについては出版社が計画しているものに協力する。8) 次の幹事会を 11 月 11 日 11 時とする。

(8) 高校土木教育研究会（第1回）(36.10.7) 出席者：沼田委員長、ほか委員 10名、幹事 11名。議事：午前の幹事会同様、沼田委員長から設立の主旨、八十島幹事長から設立の動機、規約の説明があつて幹事会の協議事項を報告して議事に入る。協議されたおもなるものは、次のとおりである。

1) 本研究会は文部省の指示はうけないが建議することはある。2) 研究発表会、見学会などは高校の先生を対象とする。各支部との連絡をとるようにする。3) 建築学会の例をしらべる。4) 高等専門学校をも参加について。5) 文部省、科学技術庁からも委員を加えることについて。6) 土木の啓蒙について。7) 高校の増設、課程の研究、教科書の研究。8) この事業は学校の立場でなく、土木学会の事業であることを認識してやってもらうこと。9) 高校卒業生と官庁、業界との関係。

などについて論議され、これを中心に次の幹事会で研究することとなつた。

(9) 第1回定款改正委員会 (36.10.9) 出席者：委員 4名。議事：改正案第1条より第12条まで審議、次回は 10 月 26 日とする。

(10) 第5回構造物耐震設計研究幹事会 (36.10.9) 出席者：久保幹事長、ほか幹事 14名。議事：1) 土木構造物設計基準の

説明。2) 耐震設計資料の内容につき検討。3) 今後の運営方針と仕事のわりふりを決定。4) 次回幹事会を 11 月 1 日に予定し土質関係の問題をまとめて審議する。

(11) 会誌編集特別委員会 (36.10.10) 出席者：委員 2 名、(36.10.17) 出席者：堺副委員長、ほか委員 4 名、鈴木忠義氏（東大土木）。議事：学会誌表紙改正の件、名誉員の希望訪問、新製品・新技術・新工法の紹介、各県ごとの建設工事状況とともに観光案内、展望記事などをとりまとめるため協議し一応成案を得た。

(12) コンクリート標準示方書改訂に関する打合会 (36.10.11) 出席者：永田会長、末森専務理事、ほか 45 名。議事：1) 永田会長、国分コンクリート委員会委員長挨拶。2) 現在までの改訂意見および資料の説明審議。3) 鉄筋コンクリートに関し早速委員会を組織し改訂に当る。4) 今後の運営方針につき審議。

(13) 第 1 回 P C 鉄道橋設計施工基準研究委員会 (36.10.11) 出席者：国分委員長、ほか委員 13 名、幹事 9 名。議事：1) 国分委員長、友永委員の挨拶。2) 設計および施工基準（案）の説明および審議。3) 委員会の運営方針について。4) 幹事に松本嘉司、池田康平の両氏を追加。

(14) 第 1 回 土木学会 50 周年記念事業委員会 常任委員会 (36.10.12) 出席者：常任委員 13 名、末森専務。議事：1) 永田会長より記念事業委員会設立のいきさつについて説明。2) 委員会の内規案（事務局で用意したもの）について審議し、一応まとめて理事会にはかること。3) この常任委員会は企画委員会とするふくみで、次回の常任委員会において記念事業の方針、各種委員会の設置および委員候補の人選などについて審議すること。4) 記念事業の方針、それとともにうる各種委員会の設置および構成、記念事業委員会の委員長、副委員長の選挙は記念事業委員会（全員）において決める。5) 企画委員会（現常任委員会）の委員長は当分の間永田会長があたる。6) これまでの準備幹事会は存続する。7) 第 2 回常任委員会は 10 月 30 日（月）17.30 時とする。

(15) 第 1 回 P C グラウト分科会 (36.10.17) 出席者：国分委員長、樋口主査、ほか委員 7 名、幹事 2 名。議事：1) 委員会発足についての主旨説明。2) グラウト試験器具検定法の審議。3) F. I. P. 質問状の検討。4) 今後の活動方針について審議。5) 次回委員会を 36 年 11 月 7 日に予定する。

(16) 第 6 回 異形鉄筋設計研究小委員会 (36.10.18) 出席者：国分委員長、ほか委員 9 名。議事：道路橋および鉄道橋の桁についての再審議を行なった。

(17) 土木工学ハンドブック 改訂主査委員会 (36.10.19) 出席者：福田委員長、ほか主査委員 13 名、出版社職員 2 名。議事：33 年 8 月発足、一部分改訂の計画が原稿が出そらわぬため停とん進捗しないので、今後の措置について協議し次のように申合わせた。1) 34 編中 10 編ほど改訂原稿が出たが、今日に至っては内容が変わってきたので書直す必要がある。2) 一部分改訂の方針を撤回して、自由な内容で新しく執筆することに決定した。3) 原稿提出期限を 37 年 3 月末までとし、37 年 12 月発行の方針を決定した。4) 執筆者の人選、割当ページの計画を主査に一任し近々のうちに回答を求ること。

(18) 第 1 回 吉田賞委員会 (36.10.23) 出席者：永田会長、ほか 12 名。議事：1) 永田会長挨拶。2) 事業会の決算報告。3) 委員会の名称の決定。4) 発起人会決議事項および要望につき説明。5) 規定につき検討。6) 次回委員会を 37 年 1 月 22 日とする。7) 幹事に樋口芳朗、西沢紀昭、野口 功の 3 氏を依頼。

(19) 第 1 回 P C 施工分科会 (36.10.24) 出席者：国分委員長、主査、幹事各 1 名、委員 10 名。議事：1) 分科会の運営方針につき検討。2) 研究課題および研究方針（案）の検討。3)

11 月末日に次回委員会を開催し、それまでに研究課題についての意見および序列を伺い検討をする。

◎講習会、研究発表会、映画会

(1) 第 5 回 地震工学研究発表会

日 時：昭.36.10.16～17

場 所：土木学会会議室

参加者：約 70 名 講演数：23

特 別 講 演	3	土 質 関 係	3
---------	---	---------	---

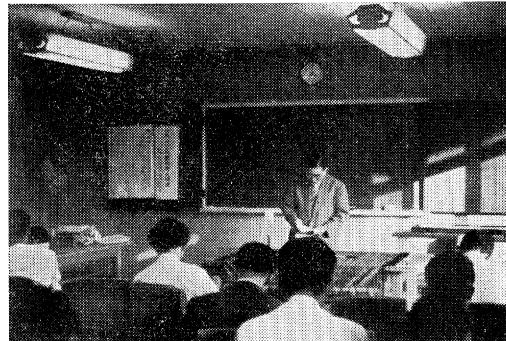
総括的 な も の	2	ダ ム 関 係	2
-----------	---	---------	---

港 湾 関 係	4	そ の 他 の も の	2
---------	---	-------------	---

橋 梁 関 係	7		
---------	---	--	--

第 1 日講演終了後、パーティーを開催した（参加者 16 名）

第 5 回 地震工学研究発表会（那須委員長挨拶）



(2) 第 8 回 橋梁構造工学研究発表会（幹事 建築学会）

日 期：昭.36.10.18, 10.00～17.00

会 場：日本建築学会会議室

講 演：「構造物における高張力鋼およびその活用」

研究発表：10 題 参 加 者：120 名

(3) プレストレスト コンクリート改訂設計施工指針を中心とした講習会

1) 日 時：昭.36.10.20（金）

2) 会 場：名古屋市公会堂

3) 受講者：270 名

官 公 庁	95	電 力 会 社	15
-------	----	---------	----

業 界	82	学 校	8
-----	----	-----	---

国 鉄・私 鉄	63	道 路 公 団	7
---------	----	---------	---

4) 映 画：

P.C. 桁火災試験 オリエンタルコンクリート 提供 15 分

小丸川鉄道橋架橋工事

ピー・エス・コンクリート 提供 25 分

(4) 学生のための映画会

日 時：昭.36.10.21（土）15.00～17.00

会 場：土木学会会議室 参加者：18 名

映 画：建設機械の取扱いと使用方法

卒業者の記録（建設技術ファイルムライブラリー 提供）

支 部 だ よ り

◎中部支部

支部役員移動

顧問（旧）大林 勇治 （日本道路公団名古屋支社長）
（新）深井 浩三 （ “ ” ）

◎関西支部

(1) 第 3 回見学会 (36.10.4) 神戸港埋立地、鶴甲山、芦有道路を見学。参加者 123 名。会費 200 円。

(2) 技術講座 1 号 (36.10.17～19 の 3 日間、大阪市立大学)

講座名 薄肉土木構造物の理論と設計

講師 大阪市立大学助教授 小松 定夫

参加者 138 名。参加費 100 円。

(3) 第5回学生見学会 (36.10.21) 堺港埋立工事を見学

参加者 62 名。参加費 50 円。

(4) 第6回幹事会 (36.10.20, 関西支部事務局)

出席者: 米谷幹事長, 赤尾, 岩崎, 打田, 大村, 岡田, 中川, 水野, 宮崎, 毛利の各幹事

(5) 幹事異動

退任: 日本道路公団大阪支社工事課長 星野出雲氏 同福

岡支社工事部長に転出

委嘱: 大阪府土木部道路課改良係長 芳内俊夫氏

編集
後記

菊香る 11 月、東京地方は好天に恵まれるのが常ですが、北国では、根雪が降った所もあるうかと思います。降るにつけ、晴れるにつけ、土木技術者と天候とは、密接な関係があります。気象の知識を一段と深め、技術の進歩に役立てて頂くために、本号では「最近の気象に関する話題」を登載致しました。

× × ×

一般にわれわれの興味は、新しいものへとひかれるものです。しかし、新しい技術は、人々が期待するにもかかわらず、その実施にあたり、多くの障害に遭遇するようです。前例がないという理由で、せっかくの新技術開発の機会が、失なわれてしまう場合が多いと思われます。綿密な調査と計画にもとづいて

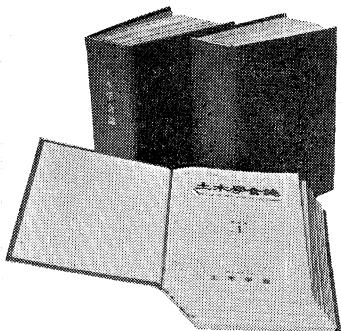
た新しい技術が、勇気をもって実行に移されるよう、切望してやみません。

× × ×

土木学会誌のあり方については、編集委員会で、つねに論議されていることですが、最近、技術の進歩にともない、専門的に細分化の傾向が強く、限られた紙面で多くの分野を網羅することは容易なわざではありません。

したがって、学会誌はつまらないという不評も出るわけですが、すべての会員から親しまれる学会誌とするため、新しい企画をどしどし採用して行く方針ですから、今後に御期待下さい。学会誌に対する御意見は遠慮なく御寄せ下さい。

【片山・記】



土木学会誌の保存は合本ファイルで

毎月の学会誌は貴重な研究資料です。学会誌の保存には 3 つの特長をもつ合本ファイルをご利用下さい。

①操作がきわめて簡単、②本の組替えが自由、③製本費が省ける

B5 判学会誌 12 冊とじ用 (薄グリーンクロース装、金文字入)

定価 150 円 (税込 70 円)

お申込みは東京都新宿区四谷一丁目土木学会へ(振替 東京 16828 番), 入金次第発送いたします。

会員入退会について (昭和 36 年 10 月 1 日から 31 日まで)

1. 入会	87 名	(正 30 学 56 特 1. D 1)
2. 復活	4 名 (正)	
3. 退会	14 名 (正 12 学 2)	
4. 死亡	1 名 (正)	

会員現在数 (昭和 36 年 10 月 31 日現在)

名	譽	正員	学生員	賛助員	特級	特 1.A	特 1.B	特 1.C	特 1.D	特 2	計	(増)
39	13	250	1233	30	12	14	27	134	224	16	14979	(76)

正員 鈴木鹿象君 東光電気工事KK

昭和 36 年 10 月 15 日死去 69 才

昭和 36 年 11 月 10 日印刷

昭和 36 年 11 月 15 日発行

土木学会誌 第 46 卷 第 11 号

印 刷 者 大沼正吉 印 刷 所 株式会社 技 報 堂 東京都港区赤坂溜池 5 番地

発 行 者 末森猛雄 発 行 所 社団法人 土木学会 東京都新宿区四谷一丁目

定 価 200 円 (送料 15 円)

振替 東京 16828 番

電話 (351) 5130・5138・5139 番

最も良い最も経済的なコンクリートを造る…

ポゾリス

セメント分散剤

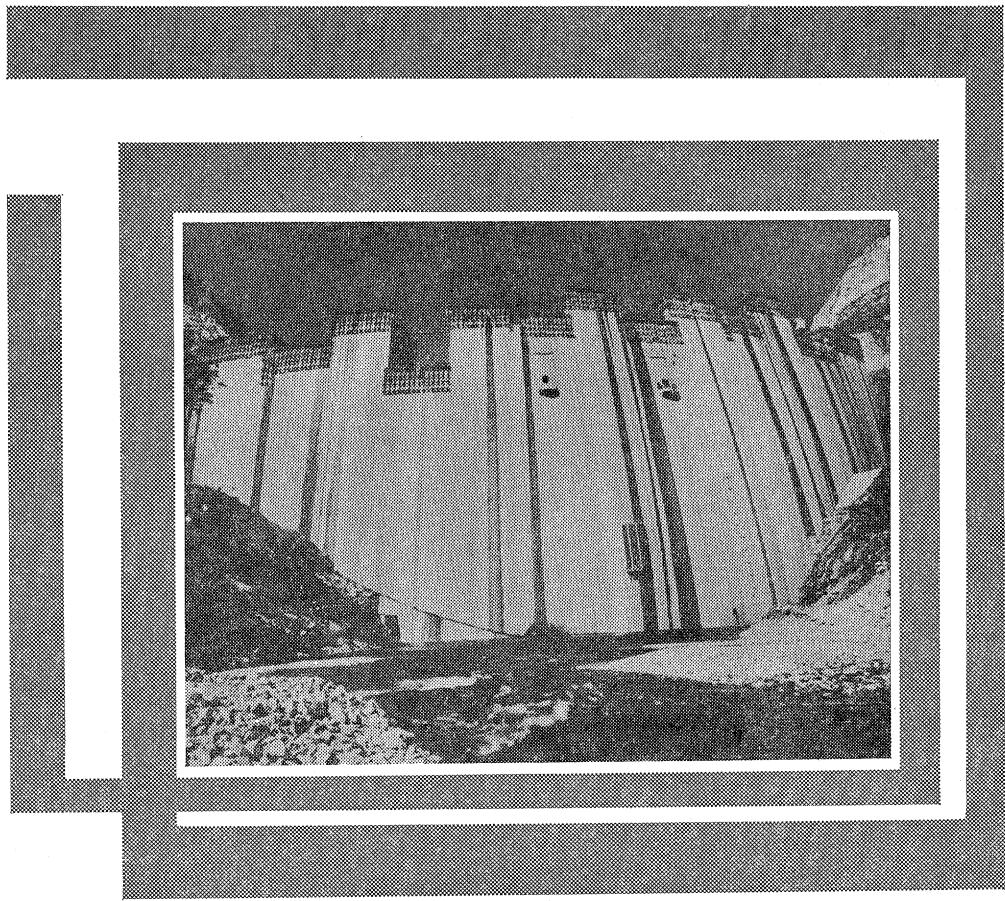
日曹マスター・ビルダーズ株式会社



本社 東京都千代田区大手町2の4(新大手町ビル)

大阪営業所 大阪市東区北浜3の7 (広銀ビル)

名古屋・福岡・仙台・札幌・二本木・高岡



(関西電力、黒部第四ダム)